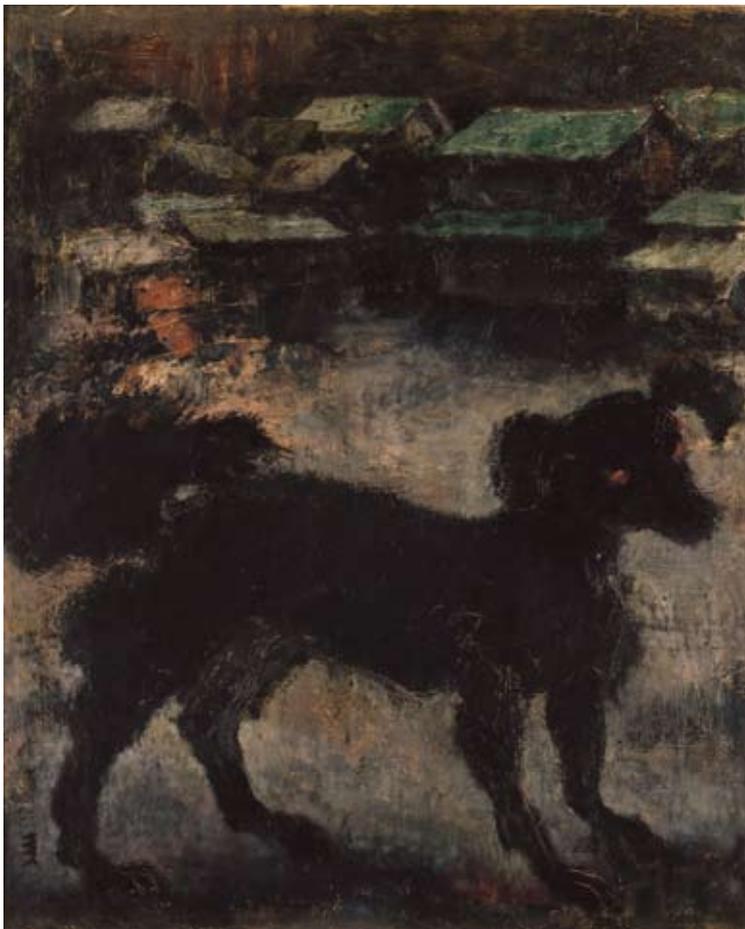


いのち
—光と影の生命—

須田国太郎展 没後50年に顧みる

SUDA Kunitaro : Looking Back 50 Years After His Death



須田国太郎《犬》1950年 東京国立近代美術館

神奈川県立近代美術館 葉山
The Museum of Modern Art, Hayama

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1
Tel. 046-875-2800 / Fax. 046-875-2968

2012年4月7日(土)–5月27日(日)

- 開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日：月曜日（4月30日は開館）
- 観覧料：一般1000円（団体900円）、20歳未満・学生850円（団体750円）、65歳以上500円、高校生100円 *（ ）内は20名以上の団体料金です。*中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。
- ファミリー・コミュニケーションの日：
毎月第一日曜日（今回は5月6日）は、18歳未満のお子様連れのご家族は優待料金（65歳以上の方を除く）でご観覧いただけます。
- 無料開館日
5月18日(金)「国際博物館の日」：この日は神奈川県立近代美術館で開催中の3つの展覧会を無料でご覧いただけます。
- 主催：神奈川県立近代美術館、日本経済新聞社
- 特別協力：京都国立近代美術館



自然や人間の本质を真挚に追求した須田国太郎 (1891-1961) —
生命の光と影を見つめ続けた、彼の強靱な精神力にあふれた主要作品を約 130 点通覧し、
現代の人々の心に深くしみわたり、新たな生きる力を得る機会となる。



《ハッカ》1922年 公益財団法人上原近代美術館



《自画像》1929年 京都国立近代美術館



《グレコ・イペリアの首》1931年 京都国立近代美術館



《筆石村》1938年 静岡県立美術館



《窪八幡》1955年 東京国立近代美術館

洋画家須田国太郎（1891-1961）が生まれて 120 年、亡くなって 50 年が経ちました。今まで須田国太郎の芸術は、高い評価を得てきましたが、東日本大震災や原発問題に端を発した不安定な政治的な情勢や、経済的な行き詰まりのなかにあつて、自然や人間の本质を真挚に追求した須田国太郎の絵画は、ますます多くの人々の心にしみわたり、ときに安らぎを与え、いよいよその芸術的な価値が増していくように思われます。

須田国太郎は、京都大学で美学・美術史を学び、並行して関西美術院でデッサンを学びました。その後、スペインに留学し、ヴェネツィア派の色彩理論や、バロック絵画の明暗法を研究しています。同時にまた、ヨーロッパ各地を訪ね歩き、西洋絵画の底に流れるレアリスムの表現の探究に努め、さらに、最新の芸術思潮を吸収することにも積極的でした。帰国後は、西洋絵画を基礎にしながら、日本独自の油彩画を生み出そうと努力を重ね、その成果は独立美術協会展を中心に発表されていきました。そこには、ひとりの画家の創作活動に対する厳しい態度が認められ、ひるむことのない孤高の軌跡を見出すことができるでしょう。困難な時期にあつて、須田国太郎の強靱な精神力にあふれたその芸術に接することで、新たな生きる力を得ることを願っております。

このたびの展覧会は、神奈川、茨城、石川、鳥取、京都、島根と巡回する回顧展となります。1932年に東京銀座の資生堂画廊で開催された第一回個展出品作や独立美術協会展出品作などを中心に、須田国太郎の風景や草花、鳥や動物などを描いた主要作品約 130 点で構成して、独特の深遠な境地に到達した須田国太郎の世界を回顧しようとするものです。

展覧会関連プログラム

■講演会「須田国太郎の形と色」

講師：原田平作氏（大阪大学名誉教授）
日時：5月19日（土）午後2時～4時
会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
定員：70名（要申込、先着順受付）無料
※申込方法は当館ホームページをご覧ください。

■担当学芸員によるトーク

日時：2012年4月14日（土）、5月12日（土）
各回午後2時～2時30分
会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
定員：70名（申込不要、当日先着順受付）無料



《雪の比叡山》1940年 神奈川県立近代美術館